

* データ収録媒体「DAT」收藏

アーカイブ室新聞 308号に「計算機媒体 MT 收藏」という記事を書いた。その中に筆者が大気球搭載用の「BAT II」という観測装置の開発のメンバーにいた頃、データ収録媒体として「DAT (ダット)」というカセットテープを使っていたという記事を書いた。残念ながら「BAT II」は数回のフライト実験を行ったがことごとく失敗して、山中に落下したり、海に落ちたりして観測は一度も成功しなかった。最後の失敗は気球から切り離しのコマンドも効かず、偏西風の上部を流れる偏東風によって西に大きく流され、某国の標高の高い地域に落下した。大気球実験をやっていた宇宙科学研究所の努力により「BAT II」は回収され、現在は国立科学博物館の資料庫に眠っている。順調な回収ではなかったから落下の際のダメージは相当なものであり、修理して使える状況ではなく、このプロジェクトは終了せざるを得なかった。その「BAT II」のデータ収録に使われていたものと同じ「DAT」を收藏することになった(写真1)。



写真1 DAT

恥ずかしながら、このプロジェクトのメンバーではあったが、データ収録のことについては知らなかったのも、このDATが「DIGITAL AUDIO TAPE」の略であったことさえ知らなかった。AUDIO TAPEが科学観測のデータ収録の媒体だった時代もあったのである。